みんなで考える、鬼北のこれから。

あなたの声を聞かせてください

まちの駅・近永ふれあい館（仮称）

住民説明会

施設整備計画と概要、そしてこれからの鬼北町について



この場所が、
みんなの居場所に。

まちの駅・近永ふれあい館（仮称）整備事業　財源の仕組み

まちの駅・近永ふれあい館（仮称）整備事業



建設費総額

169,000千円
（16,900万円）

財源の内訳

都市構造再編集中支援事業補助金
31,875千円
（3,187.5万円）
→ 国の補助金

過疎対策事業債（借入）
137,100千円
（13,710.0万円）

過疎対策事業債の仕組み

借入額 137,100千円
（13,710.0万円）

70%
地方交付税として戻る
（95,970千円）
（9,597.0万円）
→ 将来、国から地方交付税として交付

30%
町の負担
（41,130千円）
（4,113.0万円）

つまり

建設費 169,000千円のうち、
都市構造再編集中支援事業補助金31,875千円を活用し、残りは過疎対策事業債を借入。
過疎対策事業債の70%は地方交付税として戻ってきます。

近永駅周辺地区・都市再生整備計画（令和８年度～令和12年度）

計画の背景・目的

都市構造再編集中支援事業の補助金を受けるため、立地適正化計画に基づく都市再生整備計画を策定。

鬼北町では、令和７年度に**「近永駅周辺地区・都市再生整備計画」**を策定しました。

近永駅周辺賑わい創出プロジェクトを効率的に進め、必要な財源を確保するための計画です。

計画の概要

令和８年度から令和12年度までの**５年間**で、以下の事業を実施します。



近永第３踏切の拡幅



町道工場停車場線の拡幅



まちなかの駐車場整備

計画期間と主な事業内容

令和９年度

- 近永第３踏切拡幅工事設計（土木）
- 町道工場停車場線拡幅工事（第１期）
- 駐車場整備事業

令和１０年度

- 近永第３踏切拡幅工事設計（電気）
- 町道工場停車場線拡幅工事（第２期）

令和１１年度

- 近永第３踏切拡幅工事

総事業費（概算）
２億円
を見込んでいます

財源の内訳

国の補助金	過疎対策事業債
１億円	１億円



① 予土線は近永地区だけの問題ではない

予土線は、**町全体**をつなぐ
大切な交通基盤です！





高齢者の
移動に



暮らしに



通学に



観光に

だから、予土線は近永地区だけでなく、
鬼北町全体にとって大切なものなのです。

② 予土線がなくなると、町に何が起こるのか

予土線の廃線は、さまざまな影響をもたらします

予土線がなくなると…

北宇和高校の生徒数の減少
→ 高校の規模縮小・分校化または廃止



高校がなくなることで町内の中学生は宇和島までの通学に



近永中心地の衰退
→ 店舗等の撤退



地域経済への打撃
→ 地域全体の活力低下



観光・交流人口の著しい減少
→ 町のにぎわい低下



町全体が、負のスパイラルに…

③ 近永駅の整備は、鬼北町全体の未来につながる

まちの駅・近永ふれあい館（仮称）



近永駅を、**予土線の利用促進**や
地域間交流、**町のにぎわい**を生み出す
拠点として整備します！

この施設がめざすもの



予土線の
利用促進



地域間交流の
促進



観光振興



町全体の
活力向上

予土線と北宇和高校を
町全体で支え、
鬼北町の未来を
一緒に考えましょう！



まちの駅・近永ふれあい館（仮称）の施設の意義

1 人が集い、交流する場所

町民同士の日常的な交流に加え、町外から訪れる人、
学生、観光客などが出会い、つながる場所です。
駅を単なる通過点から、人が立ち寄り、滞在する場所へと
変えていく意義があります。



人が集まり、交流が生まれる場所に

2 交通とまちづくりをつなぐ場所

JR近永駅を町の玄関口の一つとして捉え、鉄道や地域交通と、
商店街、公共施設、観光資源などをつなぐ役割です。
駅周辺への人の流れを生み出し、町なかを回遊するきっかけを
つくることが期待されます。



交通とまちをつなぎ、町の回遊性を生み出す場所に

3 鬼北町の魅力を発信する場所

鬼北町の自然、食、文化、人の営みなど、地域ならではの魅力を
町内外に伝える拠点です。来訪者に町を知ってもらい、再訪や
地域との継続的な関わりにつなげることが考えられます。



鬼北町の魅力を伝え、また訪れたくなる場所に

4 地域の未来を育てる場所

町民や地域団体、事業者、学校、大学などがつながり、
新たな活動や事業に挑戦する機会を生み出す場所です。
施設そのものだけでなく、ここから生まれる人のつながりや
活動にも価値があります。



人と人、地域と地域をつなぎ、新たな挑戦を生み出す場所に

2. 今後、特に重要になる役割

この施設を、単なる駅舎の建て替えで終わらせず、完成後にどのように使い、どのような変化を生み出すかが重要です。

1 日常的に人が集まる場所にする



通学・通勤者や高齢者、子ども、地域住民などが
気軽に立ち寄れる場所として、日常的な利用を促します。
イベント開催時だけでなく、普段から人の姿が見える施設を目指します。

2 商店街や周辺地域へ人をつなぐ



駅で生まれた人の流れを近永商店街や周辺の店舗、観光スポットへ広げ、
施設内だけで賑わいを完結させず、地域全体への波及を意識します。

3 新たな交流と挑戦を生み出す



高校生や大学生、町外の企業・団体などが地域と関わる機会をつくり、
地域課題の解決や新しい企画、地域資源を活用した活動が生まれる
拠点にします。

4 予土線と鬼北町の魅力を発信する



交通の利便性を支えるとともに、鬼北町の魅力や地域の活動を発信する。
予土線の利用促進と町への関心を高め、再訪や継続的な交流につなげます。

3. 行政として考えておきたいこと

この事業は、行政だけでなく、地域住民の皆さんも一緒に考え、意見を出し合いながら進めていくことが大切です。

建設費が当初の想定を上回る状況だからこそ、施設の理念だけでなく、投資に見合う成果をどう生み出すかを、
みんなで考えていきましょう。

1 運営体制

誰が施設を管理し、日常的な利用や
イベントを支えるのか、
運営の仕組みを検討します。



2 利用の仕組み

町民が立ち寄りたくなる理由や、
町外の人が訪れるきっかけをどうつくるか、
利用の仕組みを検討します。



3 地域への波及

商店街への回遊、地域内での消費、
予土線の利用、交流人口の拡大など、
地域全体に広がる効果を目指します。



行政と地域住民が一緒になって考えるまちづくり





まちの駅・近永ふれあい館（仮称）

4 成果の検証

来館者数だけでなく、地域イベントの開催数、
商店街への回遊、地域団体との連携なども
把握し、効果を検証します。



5 将来の維持管理

維持管理費や運営費を見通し、
継続的に町民に利用される施設に
できるかを検討します。





4. 二次交通の課題

～ 近永駅を起点に、町内をもっと便利に、もっとつながる移動を ～

1 鬼北町の交通の現状・課題

運転手不足によるタクシーの減少



高齢化や人手不足により、タクシーの運転手が不足し、利用できる台数が減少しています。

バスの便数が少なく、1時間から2時間の待ち時間を要す



路線バスは便数が少なく、目的地までの移動に1時間から2時間程度の待ち時間を要することがあります。

2 JR予土線で近永駅に到着





JR予土線に乗って、まちの駅（近永駅）で降りた場合、ここから鬼北町内各地の施設などに移動する手段が少ないのが現状です。

3 町内各地へ移動する新たな手段

まちの駅（近永駅）を拠点に、町内各地に移動できる手段として、カーシェアや電動キックボード（ループ）の導入が有効です。

カーシェア

必要なときに、気軽に利用



- 予約してすぐに利用できる
- 観光や買い物など、短時間の移動にも便利
- 地域の移動を柔軟にサポート

電動キックボード（ループ）

手軽に、スイスイ移動



- 駅や主要施設にポートを設置
- アプリで簡単に利用できる
- 気軽に移動でき、町内の回遊性を高める

めざす姿

まちの駅（近永駅）を起点に、
カーシェアや電動キックボード（ループ）で
町内の 各地へ気軽に移動できる
交通の仕組みをつくります。



待ち時間を「滞在時間」に！

バス・列車の待ち時間を活かした「3時間ビジネス」の展開

近永駅での待ち時間を、
町内の魅力を体験できる時間に変え、
滞在時間の延長と地域のにぎわいを
生み出します。

こんな現状が…

バス・列車の便数が少なく
１時間から３時間の
待ち時間を要する



近永駅（まちの駅）



奈良山等妙寺歴史交流館



等妙寺の歴史や文化に
触れ、地域の魅力を
学ぶことができます。

展示交流施設 アエレールきほく



地域の歴史や文化を
紹介する展示スペースや
交流の場として、
学びと出会いが生まれます。

コワーキングスペース・ワームス



仕事や学び、交流の場
として利用できます。
テレワークや打ち合わせ
にも最適です。

多世代交流施設



子どもから高齢者まで
みんなが集う交流の場。
地域のつながりを
育みます。

**待ち時間が、
まちの魅力をつなぐ時間に！**

道の駅・広見森の三角ぼうし

地域経済の活性化

飲食・買い物・体験を楽しむ。
利用が増えます。

地域の魅力発信

SNSや口コミで
町の魅力が広がります。

人と人とのつながり

交流が生まれ、
地域のにぎわいが高まります。



まちの駅ランニングコスト

収入（年間）	乗車券販売手数料	200,000	乗車券販売手数料（近永駅乗車券販売受託事業収入の2～6%）
			※7年度受託事業収入実績 5,100,650円→うち販売手数料178,478円）
収入合計		200,000	

支出項目			算定根拠
人件費	賃金	3,516,562	管理人：時給1,210円×7.75時間×（365日+10日分） ※3名のシフト制
	通勤手当	80,000	管理人通勤手当
	小計	3,596,562	
需用費	消耗品費	130,000	まちの駅管理用、事務用消耗品
	電力料	617,052	51,421円×12箇月
	水道料	38,280	30㎜ 基本料金3,190円×12箇月
	小計	785,332	
役務費	通信運搬費	40,000	電話代
	手数料	9,000	（14人槽）浄化槽法定検査手数料
		52,333	（14人槽）汚泥引抜料 5,000ℓ×1.2÷18ℓ×157円
		12,222	（14人槽）浄化槽清掃料 5,000ℓ÷18ℓ×40円×1.1
	保険料	154,807	【算出基礎】延床面積171㎡、構造：木造平屋建
	小計	268,362	
委託料	浄化槽管理委託料	83,000	（14人槽）浄化槽保守点検委託料（年12回）
	小計	83,000	
支出合計		4,733,256	

年間のランニングコスト（収入額－支出額）	4,533,256	**※令和7年度実績額 3,669,034円**